

## < 解説 >

# SDGsを企業報告に統合するための実践ガイド

Integrating the Sustainable Development Goals  
into Corporate Reporting: A Practical Guide



(公財)地球環境戦略研究機関  
持続可能性ガバナンスセンター  
小野田真二

2019年1月23日(水) ミニシンポジウム  
ー企業のレポートングと情報開示ー  
「高まるレポートングの重要性と最新動向」



**IGES**  
Institute for Global  
Environmental Strategies

# (公財)地球環境戦略研究機関 (IGES) について

1998年3月: 日本政府のイニシアティブと神奈川県 の支援により設立

2012年4月: 公益財団法人として独立

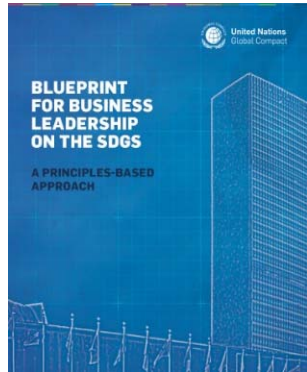
- 持続可能な開発のための革新的な政策手法の開発及び環境対策の戦略づくりのための**政策的・実践的研究**(戦略研究)を実施。自らを、持続可能な社会への移行を促進する「**チェンジ・エージェント**」と位置づけ。
- 気候変動とSDGsが大きな研究テーマ
- 主要研究グループは、気候変動とエネルギー、自然資源・生態系サービス、持続可能な消費と生産、都市、ファイナンス、ビジネス、定量分析、ガバナンス

## 略歴

ベルリン自由大学客員研究員、「環境・持続社会」研究センター客員研究員等を経て、現職。2011年のリオ+20準備会合より、SDGs策定までの国際交渉に参加。著書に『SDGsの基礎』(共著、2018)、「未来につなげるSDGsとビジネス」(共著、2018)等。神奈川工科大学非常勤講師、GCNJ SDGsタスクフォースメンバー。

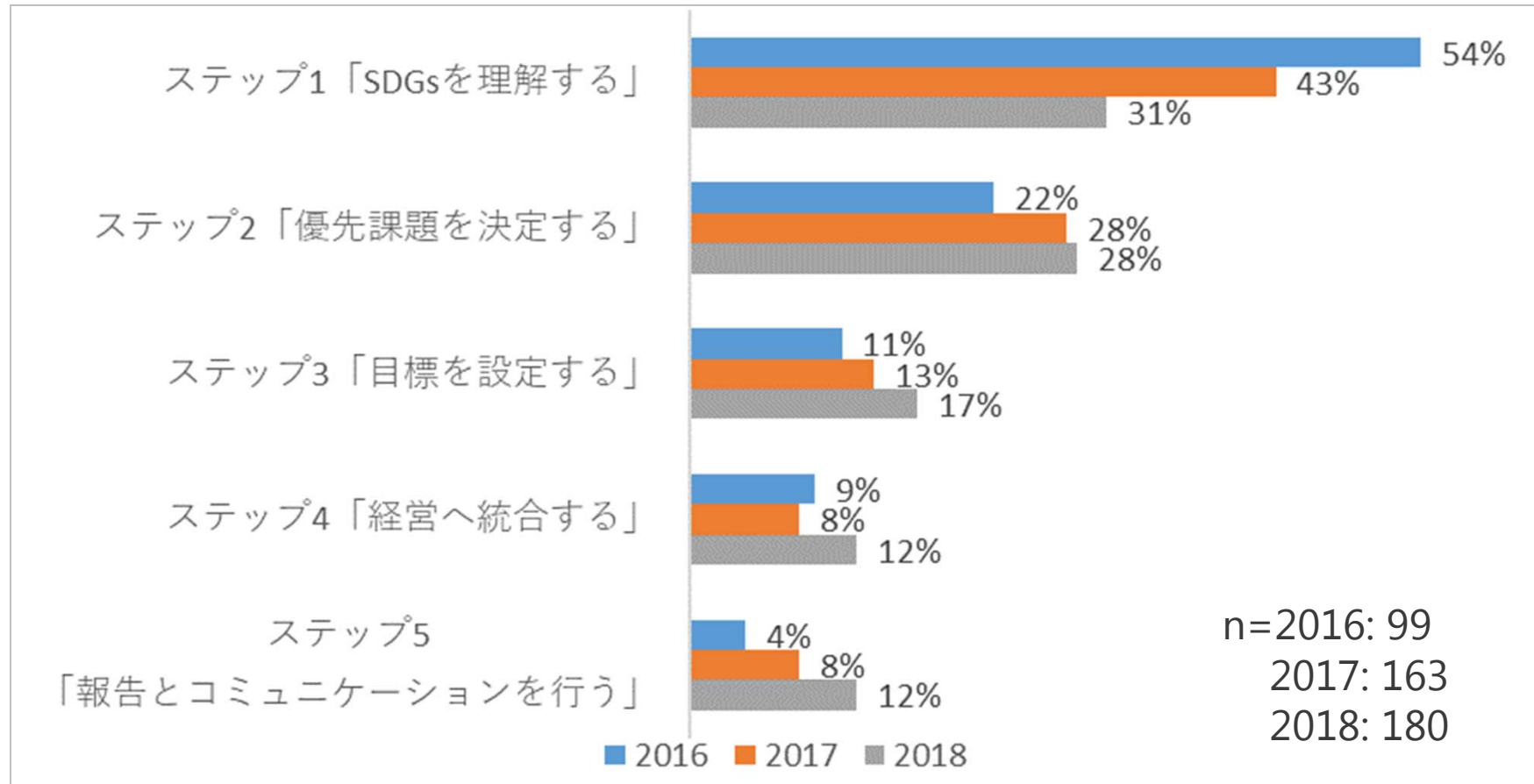
# 実践ガイドの位置づけ

こちらをご参考に！



 参照	ゴールとターゲットの 分析	SDGsを企業報告に統合 するための実践ガイド
 <b>ステップ1: SDGsを理解する</b> SDG Compassを参照		
 <b>ステップ2: 優先課題を決定する - 詳細なガイダンス</b> SDG Compassを参照		
 <b>ステップ3: 目標 (goal) を設定する</b> SDG Compassを参照		
 <b>ステップ4: 経営へ統合する</b> SDG Compassを参照		
 <b>ステップ5: 報告とコミュニケーション を行う - 詳細なガイダンス</b> SDG Compassを参照		

# SDG Compassの進捗度



GCNJ・IGES 2018年度版SDGs調査レポートは、2月28日発刊予定！

# 実践ガイドについて

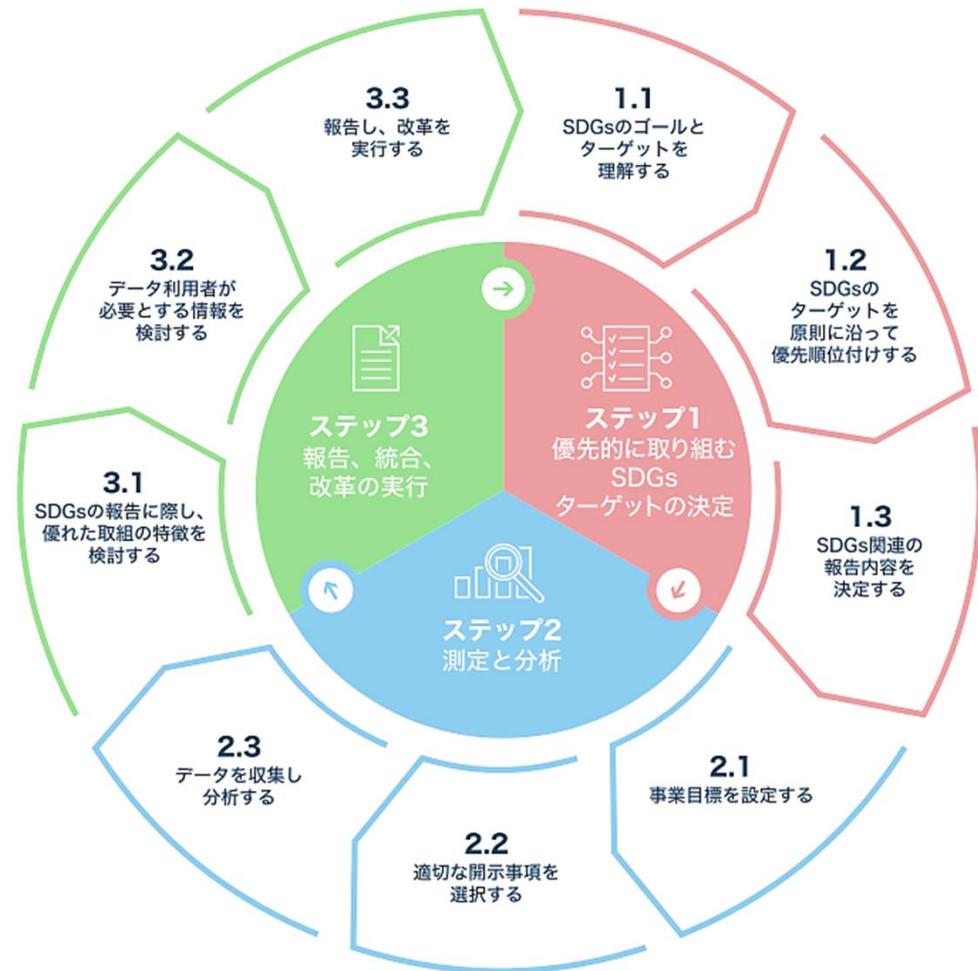
## P.2「序文」より

- 本ガイドは、SDGsに対する活動やプログラムを単にマッピングするだけの現在の傾向を超えて、企業が変化を起こす方向に向かうことを後押しするでしょう。
- 本ガイドは、企業が関連するSDGsのターゲットを特定し、優先順位をつけ、行動を起こし、進捗状況を報告することを支援するために、「原則に沿った優先順位付け」のプロセスを概説しています。

## P.5「本ガイドについて」より

- 新しい報告枠組みを提示しているわけではない。むしろ、SDGsを既存の事業プロセスと報告プロセスに組み込むための3つのステップを概説している。

## 本ガイドで概説されているステップ



これらのステップは必ずしも連続するものではなく、状況に応じて適用可能

# ステップ1:優先的に取り組む SDGsターゲットの決定

ステップ1.1 : SDGsのゴールとターゲットを理解する

ステップ1.2 : SDGsのターゲットを原則に沿って  
優先順位付けする

ステップ1.3 : SDGs関連の報告内容を決定する

# ステップ1: 優先的に取り組むSDGsターゲットの決定

## ステップ1.1: SDGsのゴールとターゲットを理解する

- ✓ SDGsのすべてのゴールとターゲットをレビューし、自社のビジネスにどのように関係するかを考える。その際、以下を考慮する。
  - 人と環境に対するリスク
  - リスクに対処する有益な製品、サービス、投資
  - 自社の事業とバリューチェーン
- ✓ SDGsのゴールおよびターゲットの相互関連性を考える。
  - 自社の活動が複数のターゲットやゴールに貢献する可能性がある。
  - 例えば、再エネ企業は、ターゲット7.1「安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する」を優先事項と考えるだろう。これは、気候変動に関するレジリエンス(対応力)強化に関するターゲット13.1や、基本的サービスへのアクセス確保に関するターゲット1.4などにも結びつく

# ステップ1: 優先的に取り組むSDGsターゲットの決定

## ステップ1.2: SDGsのターゲットを原則に沿って優先順位付けする

- ✓ 「原則に沿った優先順位付け」とは、企業が焦点をおいて取り組む優先的なSDGsのターゲットを特定するプロセス。
  - GRIスタンダードに基づくプロセスに統合する際に有用。
  
- ✓ 企業が優先的なSDGsのターゲットを特定するための2つのエントリーポイント
  - A) 人と環境に対して優先度の高いリスクがSDGsのターゲットとどのように関係しているかを評価
    - ① 事業とバリューチェーンに関する人と環境に対するリスクの全体像を把握する
      - ーリスクマッピングの作業には、社内外のステークホルダーをエンゲージメントさせる
    - ② 影響の深刻度と発生可能性から、優先度の高いリスクを特定する
      - ー最も深刻な影響は、起こりうる可能性が低くても、優先する必要
    - ③ 該当するSDGsのゴールとターゲットに関連付ける
      - 1つ目の優先的なSDGsターゲット群



# ステップ1: 優先的に取り組むSDGsターゲットの決定

## ステップ1.2: SDGsのターゲットを原則に沿って優先順位付けする

### B) 有益な製品、サービス、または投資を通じて自社が最も貢献できるSDGsのターゲットを探す

- ① SDGsに関連する製品、サービス、または投資の実際のおよび潜在的な正の影響または便益を幅広く捉える
  - － 自社の技能や能力をいかに活用するか
  - － SDGsに貢献しつつ、価値を創造できるか
  - － すぐに取り組めないかもしれないが、将来的な取組を可能にするアイデアが得られるかもしれない
- ② SDGs関連の有益な製品、サービス、投資の優先順位付け
  - － 社会および事業にもたらしうる便益の大きさから検討
- ③ 間接的に貢献できるSDGsのゴールとターゲットも考慮
  - 2つ目の優先的なSDGsターゲット群

## ステップ1.3: SDGs関連の報告内容を決定する

- ✓ GRIスタンダードに基づいて特定した重要(マテリアル)な項目とのすり合わせを行う

# ステップ2:測定と分析

ステップ2.1：事業目標を設定する

ステップ2.2：適切な開示事項を選択する

ステップ2.3：データを収集し分析する

## ステップ2:測定と分析

### ステップ2.1:事業目標を設定する

✓ 優先的なSDGsターゲットに貢献する目標を設定する

その際、

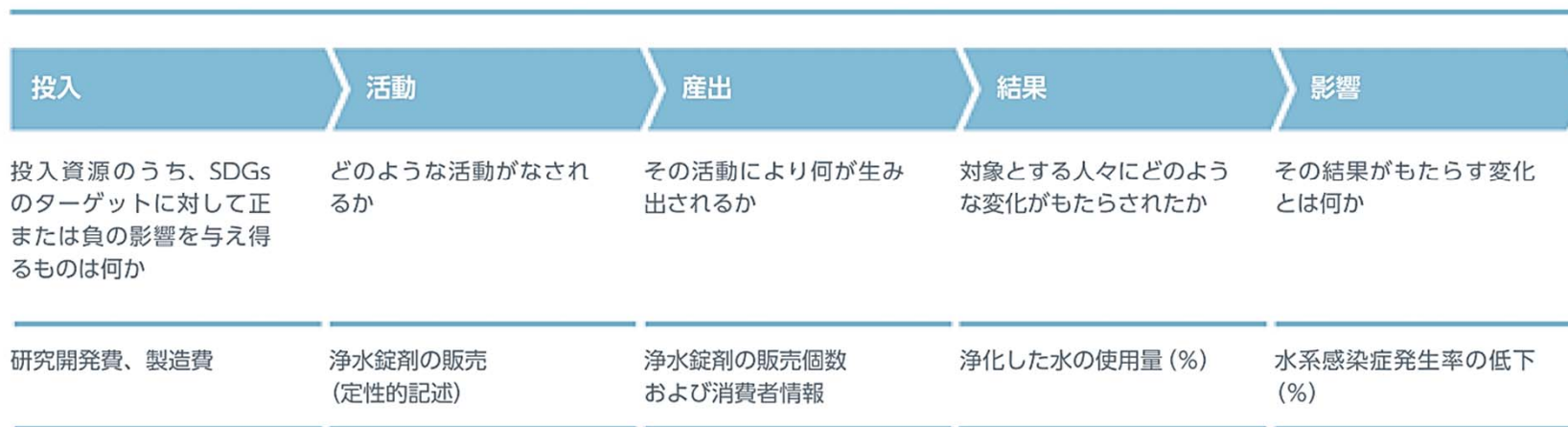
- 優先度の高いリスクに取り組む際は、危害を与えることを回避するだけでなく、プラスの結果を最大化する戦略を考慮
- 製品、サービス、投資を特定する際、最小限の負の影響で生産・提供されることを確実にする
- 人権への負の影響は他の正の影響によって相殺できないことに留意
- 可能な場合にはプラネタリーバウンダリーや他の閾値を考慮した目標を設定
- ステークホルダーとの協議

## ステップ2:測定と分析

### ステップ2.2:適切な開示事項を選択する(下図も参照)

- ✓ 開示事項は、定量的な情報(数値、比率など)と定性的な情報の両方を含む
- ✓ 定性的な開示事項は、実際・潜在的な影響の特定、分析、対応の方法と理由を順序立てて説明
- ✓ 開示基準を探すための参考資料として、「ゴールとターゲットの分析」を利用
- ✓ 既存の開示項目がない場合、
  - それら項目のマネジメント手法について報告、あるいは、
  - 独自の開示事項を開発したり、他の情報源に依拠も可能

### 事業の異なるレベルでの水の浄化に関する指標の例



## ステップ2:測定と分析

### ステップ2.3:データを収集し分析する

- ✓ 優先的なSDGsターゲットに関する指標を選択した後、各指標に関連する定量的・定性的データを特定し、収集する
- ✓ このプロセスでは、ステークホルダーのエンゲージメントが有用
- ✓ 可能であれば、集約されたデータと地域別のデータの両方を公開
  - 例えば地域に脆弱な集団が存在する場合、ジェンダー、年齢、移民などのデータが重要になる
- ✓ 優先的なSDGsターゲットそれぞれに設定した目標について、進捗状況を定期的に測定する

# ステップ3：報告、統合、改革の実行

ステップ3.1：SDGsの報告に際し、  
優れた取組の特徴を検討する

ステップ3.2：データ利用者が必要とする情報を  
検討する

ステップ3.3：報告し、改革を実行する

## ステップ3: 報告、統合、改革の実行

### ステップ3.1: SDGsの報告に際し、優れた取組の特徴を検討する

- ✓ SDGsの報告は、実用的である限りは、確立された国際的な報告枠組みに基づくべき（「ゴールとターゲットの分析」も参照）
- ✓ 経営陣・取締役会に対する内部向け報告は、SDGs戦略を自社のビジネスモデルに統合する上で有用
- ✓ 株主など外部向け報告は、業績と改善の余地について、建設的なエンゲージメントを促進

### 効果的な報告 – 4つのC

#### 簡潔 (Concise)

簡潔な報告は、優先的に取り組む最も重要（マテリアル）な情報に焦点を当て、乱雑さと情報過多を避けている。

#### 一貫性 (Consistent)

一貫性のある報告は、パフォーマンスに関する経年の傾向の評価を可能にする。つまり、報告されたデータから得られる本質の意味を理解し、マネジメントすることを可能とする。

#### 現在 (Current)

現在を示す報告は、過去の出来事を示すバックミラーではなく、事業や影響、ビジネス機会の可能性についての洞察を与える有効な窓口である。

#### 比較可能 (Comparable)

比較可能な報告は、同業者との比較によってパフォーマンスを評価することを可能にする。これにより、企業が影響を追跡・評価し、これらを経年で改善するための意思決定を行えるようにする。

## ステップ3: 報告、統合、改革の実行

- ✓ 企業が異なる地域で活動する場合、優先的なSDGsのターゲットと、サステナビリティという幅広い文脈での全体的なパフォーマンスを示す
  - 例えば、気候変動などの地球規模の影響の視点と、地域コミュニティに対して、組織が地域にどのような影響を与えているのか
- ✓ 優先的なSDGsターゲットへの貢献に関する情報を開示する際は、他の関連する国際協定やコミットメントに関連付ける
- ✓ ステークホルダーが読むことを期待するかもしれないが、報告から省略することを決めたSDGs関連の項目についての説明と、重要でない結論づけた理由
- ✓ 負の影響を特定した場合は、実施している、もしくは、今後実施する解決策の説明



## ステップ3: 報告、統合、改革の実行

### ステップ3.2: データ利用者が必要とする情報を検討する

- ✓ 政府が必要とする情報
  - ハイレベル政治フォーラム (HLPF) での自発的国家レビュー (VNR) に使える情報など
  
- ✓ 投資家が必要とする情報
  - 企業がSDGsに関連する競争優位をいかに事業成果に変えているのか
  - 企業戦略全体とSDGsがどれ程関連しているかなど
  - “In Focus: Addressing Investor Needs in Business Reporting on the SDGs” を参照 (2019年前半にGCNJとIGESから翻訳版を発刊予定！)
  
- ✓ 市民社会が必要とする情報
  
- ✓ 消費者や学者が必要とする情報

## ステップ3: 報告、統合、改革の実行

### ステップ3.3: 報告し、改革を実行する

- ✓ 優先的なSDGsターゲットに関連して設定した目標達成状況を評価し、ギャップを予測し、改善策に反映させ、その情報を報告書に記載
  - 内部調整とオーナーシップの分配(担当部門の所管)が重要
  
- ✓ 報告のサイクルをレビューし、評価する
  - 作業量を最小限に抑え、優先的なSDGsターゲットに関連したパフォーマンスを最大化するために、内部の報告プロセスと情報公開を同期させる
  - ステークホルダーのリストを定期的に見直す
  
- ✓ SDGsを企業戦略に統合するための基礎として、SDGs報告を活用
  
- ✓ 内部のコミュニケーションは外部向けの報告と同様に重要。従業員とのエンゲージメントとリーダーシップを後押しするため、自社の戦略と進捗について、より広範な従業員とコミュニケーションをとることを検討する

## ステップ3: 報告、統合、改革の実行

### チェックリスト — 報告では何を扱うべきか？

- ✓ 人もしくは環境に対するリスクに基づく、または有益な製品、サービス、投資に基づく、自社がもたらす著しい影響。
- ✓ これらの影響を分析した結果が、優先的なSDGsターゲットの特定にどのように情報を提供したか。
- ✓ ステークホルダーからのフィードバックが、結論を出す上でどのように情報を提供したか。
- ✓ 優先的なSDGsターゲットに貢献するための目標(ゴール)と測定(指標)を含む戦略。この戦略は、SDGsターゲットへの積極的な貢献が、リスクへの取組と有益な製品やサービスの提供の両面からもたらされ得る、という認識を示すものであること。ステークホルダーとのエンゲージメントを含め、関連する企業方針、システムおよびプロセスの記述を含むこともある。
- ✓ 自社が実際に引き起こした、あるいは助長した負の影響の事例や、人権侵害を受けた人々の効果的な救済のために自社が取った行動。
- ✓ 優先的なSDGsターゲットに貢献するという目標に向けて、いかに自社が進展したかと生じた後退を示す指標とデータ。
- ✓ 将来さらに進展するための計画。

ご清聴ありがとうございました。

